

(件名) 食糧危機に備えることを求める陳情

(陳情の趣旨)

今年の6月から9月の南半球での冬、鹿児島県とほぼ同緯度にある南アフリカで降雪がかなり大量にあった。例年、南アフリカでの降雪は記録されないため、この12月以降、鹿児島県での降雪がかなりの規模で起こる可能性が高い。

また、アメリカからの輸入穀物価格が高騰していて、日本は一種の買い負け状況に既に陥っている可能性がある。

財務省発表の貿易統計の速報値：

アメリカからの穀物類の輸入、前年同期比：

09月分：数量ベースでマイナス14.9%、価格ベースでプラス41.9%

10月分：数量ベースでマイナス40.5%、価格ベースでプラス05.2%

9月分は価格が40%以上上昇しているが、数量ベースでは15%未満の減少で留まっているが、10月分は価格ベースでの上昇が小さいにもかかわらず、数量ベースでの減少が40%を超している。

国別ではなく全体での統計で、原油及び粗油の輸入も同様の傾向がある。

09月分：数量ベースでプラス15.1%、価格ベースでプラス90.6%

10月分：数量ベースでマイナス0.6%、価格ベースでプラス81.0%

価格が高騰しているためか、本来であれば暖房需要が発生する冬を前に増加に転じる数量ベースで10月分はマイナスに転じている。

1980年にアメリカ大陸西岸のセント・ヘレンズ山という富士山と同規模の火山で、山頂から400m程度が一気に吹き飛ぶという山体崩壊が起こっている。これ以降エイズ感染が起こり出し、富裕層優遇税制がアメリカや日本で採用され、格差が大きくなるように誘導がされている。

1985年のプラザ合意以降、日本経済は基本的に負け戦続きとなっている。

なぜ、セント・ヘレンズ山の山体崩壊以降、世界が大きく変化したかということ、イエローストンという火山の過酷噴火が1万年未満の期間で繰り返されてきて、セント・ヘレンズ山の山体崩壊がイエローストン噴火に近いことを示すとアメリカ政府により解釈されている可能性がある。

現在、大西洋を南北に縦断する大西洋中央海嶺がある。しかし、現在の太平洋には東太平洋海嶺が存在し、太平洋中央海嶺は存在しない。これは長期間大西洋中央海嶺の活動が活発で、大西洋の海底の拡大が続き、結果的に南北アメリカ大陸が西に押され、太平洋の海底が縮小したからだと説明されている。

そのため、ロッキー山脈の下に東太平洋海嶺の一部が沈み込んでいる。その為、ロッキー山脈の下に沈み込んだ東太平洋海嶺からマグマの熱が大量に北アメリカ大陸の下に蓄積されている可能性を示している。

そもそも、南アメリカだけでなく、メキシコにも古代文明が発達したが、アメリカ合衆国の位置では古代文明の発達がない。

鬼界カルデラが約7000年前に過酷噴火したため、西日本一帯の文明が滅んだとされるが、数千年で回復している。そのため、北アメリカで古代文明の発達が無かったことは、1万年よりもかなり短い間隔でイエローストンの過酷噴火が起こってきたと仮定しないと説明が出来ない。なお、アメリカ政府は直近のイエローストン過酷噴火は約60万年前であるとしている。

二酸化炭素ガスによる地球温暖化という議論が正式な会議で初めて出てきたのが1985年のこと。イエローストンの過酷噴火が起こると、寒冷化が地球規模で起こ

り、その規模や期間は今までの寒冷期を大きく上回るものになるとされる。アメリカ政府は長期間苛酷な寒冷期が続くと見て、化石燃料の独占を狙っている可能性がある。

以上の趣旨を持って、次のことを陳情する。

1. 耕作放棄地を耕作が再開できる状況に保つか、または、貸出がより進むように耕作放棄地の場所や広さ、現状について、県及び市町村で共同してデータベースを作成し、県のサイトで公開すること。
2. 雪害対策を講じることを県下の農業従事者に促すこと。
3. 作物の種子、肥料、耕作機械の燃料を県で備蓄すること。

以上